

チェンマイでの自主参加体験を通して

チェンマイ・ラジャバット大学では、主に日本語学科の学生に日本語を指導したり、日本文化を紹介したりしました。また、反対にタイ人学生からタイ語を教わったり、タイの文化や食、民族についての説明を受けたりする授業もありました。お互いがお互いの国の言葉や文化を紹介し合い、異文化に関する理解が深まりました。休み時間や昼食時間もタイ人学生と一緒に過ごし、ぐっと距離が近くなったように感じます。

カウイラ高校では、日本語の授業にティーチング・アシスタントとして参加させていただきました。高校生は日本語を学習し始めたばかりの子がほとんどであり、話すスピードが少しでも速かったり、難しい言葉を使ってしまったりすると、伝えたいことが伝わりませんでした。そんなときにどう工夫すればよいかを先生と一緒にについてきて下さった大学生バディーが教えてくださり、改善していく中で私たち自身も学ぶことがたくさんありました。

チェンマイ・ラジャバット大学附属幼稚園および小学校では、日本の遊びを紹介しました。日本語が全く分からない幼稚園児や小学生には、遊びのルールを説明することさえ困難でしたが、ここでも大学生バディーがアシストして下さり、幼稚園の先生方や園児、小学生にはとても楽しんでもらうことができました。幼稚園では、年少の頃から英語や中国語、生物、美術などのレベルの高い教育が行われており、驚きました。また、小学校では英語の授業の見学もさせていただき、そのレベルの高さに日本との違いを感じることができました。

今回、幼稚園から大学まで様々な校種の学校を訪問させていただく中でタイの教育課程を知り、それぞれの年齢に応じた接し方や日本語の教え方を学ぶことができました。臨機応変な対応が求められる場面も多く、卒業後 教師を目指している私たちにとって現地での日本語や日本文化の授業はとても貴重な体験になりました。日本を好きだという方が大変多く、日本文化を紹介するにあたっては私たち日本人自身も日本について改めて見つめ直すいい機会になりました。

また滞在中、困ったことや分からないことがあった時には本当に多くの方が私たちを助け、支えて下さりました。初めは言語の壁や文化の違いに不安もあったのですが、タイ人と関わるうちにそんな不安は消え、とても充実した毎日を送ることができました。同年代の学生からたまたま入ったお店の店員さんまで、みんな心が温かいというのは、タイの魅力の一つだと思います。

最後に、今回のプログラムにおいてご協力いただき、お世話になった現地の方々に厚くお礼申し上げます。(文：濱中 綾)